

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2022 年度 郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部
一 般 選 抜 Ⅲ 期
個 別 学 力 試 験 問 題

国 語

(国語総合)

注 意 事 項

- 1 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気付いた場合は、監督者に知らせてください。

志 願 番 号		氏 名	
---------	--	-----	--

解答は、すべて解答用紙に記入すること。

問題Ⅰ 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

犬と①サンポしながら、小学校の校庭のそばを通った。ちょうどお昼休みの時間だったようで、雲雀ひばりのような子供たちの歓声が明るく空に響いていた。ああ、いいなあ、楽しそうだなあ、と思いながら歩いていると、校庭のこちら側の②一角にいた男の子が何かを口ずさみはじめた。二年生か三年生くらいだろうか。友達と遊んでいるのが楽しくて、思わず、と言った感じだった。

すると、きつとコロナのせいで大きな声を出さないよう注意されているのであろう級友らしき男の子たちが、小さな声で同じ歌を歌いはじめた。ささやくような声で歌うことが、わけもなくうれしそうで、彼らはみんなにこにこ笑いながら歌を歌っていた。つられて、こちらまで笑いだしたくなるような場面だった。ひとりがふと歌いはじめた歌が、まわりの子たちに楽しさと一緒に広がっていく。その様子は、その場にそのときだけ咲いた明るい花のようなよろこびだったと思う。(A) たまたま通りかかって、何かとてもいい場面を見せてもらった気がした。

うれしさや、楽しさ、よろこびには力がある。私はその歌を知らなかったけれど、聞いたばかりの歌を③ハナウタでふんふん歌いながら、犬と共に校庭を離れた。(B) 足取りも軽くなった。

そういえば、犬のことも似ている。この犬が家に来たとき、小学生、中学生、高校生の子供たちが三人いて、毎日とても④イソガしかった。さらに犬が加わったら、(C) なかなか手がまわらないのではないかとちよつと心配だったのだ。子供たちひとりひとりにかける時間も愛情も、犬が来て頭数が増えたことで少し減ることになるのではないか。

心配は無用だった。犬はとてもかわいかった。子供たちとかわるがわる世話をし、犬にかける愛情が増えた分、子供たちに向ける愛情も濃くなったように思う。だいたい、子供がひとりからふたりに増えたら愛情が半分ずつになるかという、もちろんそんなことはない。

(D) 三人になっても愛情は同じだけ増えて行く。喜びも、楽しみも三倍になるのだ。正確に三倍かどうか測れるわけではないけれど、たとえば家族に犬が増えたなら、犬の分、愛情が膨らんでいる。誰かの分が減るわけではない。決まった量を割るのではなく、⑤湧いてくるもの

なのだ。(E) 愛情とか、よろこびとか、楽しさとか、つまり、しあわせみたいなもの。それらは限りがあるものではないらしい。どんどん生まれてきて、人生を輝かせてくれる。小学校の校庭にささやかに響いた子供たちの歌声が、まだ胸に残って光を放っている。

(宮下奈都「幸せって何だろう vol.43」 『JAF Mate』二〇二一年八・九月号 一部改変)

【二】傍線部①～⑤の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。(各二点)

【二】二重傍線部(A)「たまたま通りかかって、何かとてもいい場面を見せてもらった気がした」とあるが、筆者はなぜこのような気がするのか。次の選択肢の中から適切なものを一つ選びなさい。(二点)

ア たまたま小学校の校庭を通りかかったら、ちようどお昼休みの時間だったから。

イ 雲雀ひばりのような子供たちの歓声が明るく空に響いていたから。

ウ 校庭のこちら側の一角にいた男の子が何かを口ずさんでいたから。

エ 男の子たちが一緒にささやくような声で歌っている様子がわけもなく楽しそうだったから。

オ その場にその時だけ、明るい色の花が咲いたから。

【三】二重傍線部(B)「足取りも軽くなった」とあるが、それはなぜか。本文中の言葉を使って答えなさい。(七点)

【四】二重傍線部(C)「なかなか手がまわらないのではないかとちょっと心配だったのだ」とあるが、筆者はなぜそう考えたのか。

本文中の言葉を使って答えなさい。(七点)

【五】二重傍線部(D)「三人になっても愛情は同じだけ増えて行く。喜びも、楽しみも三倍になるのだ」とあるが、筆者は何をきっかけにこのように感じたのか。本文中の言葉を使って答えなさい。(七点)

【六】二重傍線部(E)「愛情とか、よろこびとか、楽しさとか、つまり、しあわせみたいなもの」の特徴を筆者はどのように考えているか。本文中の言葉を使って説明しなさい。(七点)

問題Ⅱ 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

コミュニケーションというのは、人と人との間に、橋を架けるような①サギョウだ。

だれもが、最初は初対面だった。それが、いつの間にか、一緒に仕事をしたり、心が通じたり、大喧嘩さえできるようになるのだから、本当に不思議だ。みんな、どうにかして橋を架けているのだ。あなたは、どうやって橋を架けてきたのだろうか？

橋を架ける技術には、いろいろある。

②重宝しそうなのが「論理」という橋だ。この橋を渡りきった先のゴールは「説得」だ。考えが違ふ人と、「私はこう思う」、「俺はこう思う」と言い張っているだけでは、一生、橋は架からない。だから、二人にとって公平な根拠を探してくる。データとか、③キヤツカンの事実とか。それを、まるで詰将棋のように、筋道を立てて並べていく。「原因がこうだから……、結果がこうなるでしょ……、すると……」
あつ、なるほど！

と自分も相手も「納得」したら、そこがゴールだ。その瞬間、すつと④腑に落ちる。「論理」の橋は、「ひらけ」を生む。一緒に、対等でひらかれた場所に出ていくような快感だ。

ところが、(B)「論理」では、橋が架からないことがある。メッセージは関係の中で人の心に届くからだ。④正論は、ときに人を傷つける。

そこで、「共感」という橋が登場する。初めて会う人同士でも、言葉やふるまいに、何かひとつでも、「そう、そう！ 私もまさにそう思ってたの」とか、「わっかるな」、その気持ち」ということがあれば通じ合える。理詰めで説得して、肩をゆすつても動かせなかった相手が、いいな。

と共感することで、相手の方から動いてくれる。この橋のゴールは、「好き」になること。ファンとか、シンパになることにつながる。

(C) デイズニールに何度も足を運ぶ人は、説得されたのではなく、好きだから、心が向くからだ。

橋は他にも、「情」の橋、一気に感動というようなゴールに⑤トウタツする「芸術」の橋、などさまざまある。

中でも、仕事や社会生活で、私たちが、日々格闘しているのが、(D)「信頼」という橋を架けることだ。仕事のトラブルも成功も、繰り返して、信頼関係という問題におちていく。信頼の橋は、つくるのがとつても大変なのにとても面白い。あつという間に崩れてしまう。つくるのに長い年月がかかるかと思えば、短時間でできあがつてしまうこともある。この橋が架かる条件は何だろうか？

この橋のゴールには、「世界中の人がなると言っても私は、あなたを信じている」、あるいは、「何も言わなくてもわかっている」というような、

互いの内面による絆

がある。初対面の億劫さ、通じ合えない数々の傷も、こうした絆ができることで、心からの満足に変わる。自分の発言は、よけいなブレや誤解という段階を超えて、相手に受け入れられ、実りを生む。絆が広がることで、人や世の中に対して、積極的に自分を謳っていくことができる。

【一】傍線部①～⑤の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。(各二点)

【二】二重傍線部(A)「腑に落ちる」は、一般的には「腑に落ちない」と否定形で使われる慣用句である。「腑に落ちない」の意味は次の選択肢のうちのどれか。合致するものを選び、記号で答えなさい。(二点)

ア よくわかる。

イ 釈然としない。

ウ 相手を力でねじ伏せる。

エ 食べ物が喉に詰まる。

【三】二重傍線部(B)「論理」では、橋が架からないことがある」について、具体的にどういうことを指していると考えられるか、本文中の語句を用いて説明しなさい。(七点)

【四】二重傍線部(C)「デイズニーランドに何度も足を運ぶ人」について、本文の主張を踏まえると、デイズニーランドに何度も行くのはなぜだと考えられるか、本文中の語句を用いて説明しなさい。(七点)

【五】二重傍線部(D)「信頼」という橋を架けること」について、この橋の特徴を本文中の語句を用いて説明しなさい。(七点)

【六】次の選択肢のうちから、本文の主張と合致する内容のものを全て選び、記号で答えなさい。(六点[完全解答のみ])

ア 誰かとコミュニケーションを取るというのは、その人との間に橋を架けるようなものである。

イ 相手に共感できなくても、論理的に説明することさえできれば、相手を説得することは容易である。

ウ 正論を振りがざすことが最も重要であり、コミュニケーションの核心は相手の納得である。

エ ミッキーマウスが好きな人は、必ずディズニーランドに行くことになる。

オ 誰かと信頼関係をつくるのは大変だが、つくるまでに長い時間がかかることもあれば、そうではないこともある。

【七】本文の主張を踏まえ、あなたが初対面の人とコミュニケーションを深めるための方法について、あなたの考えを二〇〇字以内で書きなさい。

(二十点)

解
答
用
紙

氏名	国語（国語総合）	二〇二二年度 郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部 一般選抜Ⅲ期 個別学力試験
		志願番号
得点		

問題Ⅰ

【一】	①	②	③	④	⑤
【二】					
【三】					
【四】					
【五】					
【六】					

7点7点7点7点2点10点

問題Ⅱ

【一】	①	②	③	④	⑤
【二】					
【三】					
【四】					
【五】					
【六】					

10点3点7点7点7点6点

[illegible]

20点

二〇二二年度 郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部 一般選抜Ⅲ期 個別学力試験	国語（国語総合）	氏名
志願番号		

【二】	①	工		②	③	④	⑤
【三】	散歩						
【四】	いっかく						
【五】	鼻歌						
【六】	忙						
【七】	わ						
(例) 子どもたちが、ささやくような声でみんな一緒に、わけもなくうれしそうに歌っていた様子につられて、こちらまで笑いだしたくなるような気持ちになり、力をもらえたから。							
(例) 子どもたちひとりひとりにかける時間も愛情も、犬が来て頭数が増えたことで少し減ることになるのではないかと考えたから。							
(例) 子どもたちとかわるがわる世話をし、犬にかける愛情が増えた分、子どもたちに向ける愛情も濃くなったように思うから。							
(例) 愛情とか、よろこびとか、楽しさとか、つまり、しあわせみたいなものは「限りがあるものではないらしい。どんどん生まれてきて、人生を輝かせてくれる」ものである。							

[illegible]

二〇二二年度 郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部 一般選抜Ⅲ期 個別学力試験		
氏名	国 語（国語総合）	
志願番号		

【七】											
		採点のポイント ・テーマ「初対面の人とコミュニケーションを深めるための方法」に合った内容か。 ・常体と敬体が混在していないか。 ・話し言葉になっていないか。 ・へら抜き言葉、違かつた、「なので」始まり等 ・誤字／脱字はないか。 ・文字数は適切か。（一五〇～二〇〇字）									

20点